

「ふね遺産」（応募様式）

No.(*)	内容	備考
1. 対象物・資料の名称・所属または所有者	対象物： 幕末建造スクーナー型木造帆船「ヘダ」 —大船建造禁止解禁後建造、ロシア技術将校指導により洋式帆船設計・建造・進水法を初めて学んだ—	認定対象はヘダ（非保存船）
2. 対象物の作成・存在時期	安政2年（1855年）3月10日進水、帰国航海後幕府に献上され、明治5年（1872年）廃艦となって函館に係留された。 バウスプリットを含む全長約24m、最大幅約7m、デッキ深さ約3m	安政2年3月22日戸田を出港しニコラエフスクへ安政3年10月末、幕府に献上
3. 現状（写真添付）		左：ヘダ 右：すべり台式進水状況 （出典：東洋文庫「プチャーチン来航図」）
4. ふね遺産認定基準の該当項目(**)	【認定対象】 (1) 船舶 (4) 後世に伝承すべき重要な技術や事象を示すもの 【認定基準】 (7) ふね関連技術と社会・文化の関係上重要な、初めて、または最古のもの	
5. 歴史的・工学技術的意義	幕末に遭難したディアナ号の乗組員帰国のために建造されたもので、設計はロシア将校であったが、建造には日本側船大工が参加した。建造技術を学んだ関係者は、その後長崎伝習所派遣による操船・造船技術学習や蒸気船千代田型の建造に携わるなどして我が国の造船分野の発展に貢献した。	
6. 参考資料・文献（本表に収まらない場合は別途添付する）	<ul style="list-style-type: none"> ・戸田村教育委員会：「ヘダ号の建造—幕末における—」1979、 ・戸田村立造船郷土資料博物館展示：舟大工が書き写した正面線図・デッキプラン・側面図・マスト図面 ・高野明：プチャーチン来航と戸田の造船、海事史研究、6号、1966注）スクーナー・オーピトの断面図と平面図あり ・戸田造船郷土資料博物館案内冊子：プチャーチン来航 戸田村における露艦建造 戸田村教育委員会（13頁）注）君沢型の側面・平面図あり ・北澤法隆：日本におけるスクーナー「ヘダ」建造のロシア側関係資料、海事史研究 第51号、1994-6 ・北澤法隆：ロシア海軍雑誌「モルスコイ・ズボルニク」のスクーナー「ヘダ」建造記事、海事史研究 第54号、1997-9 ・土屋重朗：近代日本造船事始—肥田浜五郎の生涯—、新人物往来社、1979、注）ヘダ号建造記述あり ・「スクーネル船」大工 石原藤蔵（安政2年卯正月） ・太田家文書（目録作成 石井謙治） 	<p>左記の図面は舟大工でヘダ号の設計を担当した石原藤蔵の子孫の所蔵である。下は正面線図</p>  <p>・ヘダやディアナ号の模型が戸田造船郷土資料博物館に展示されている</p>

(*) No. は学会で記載します。